

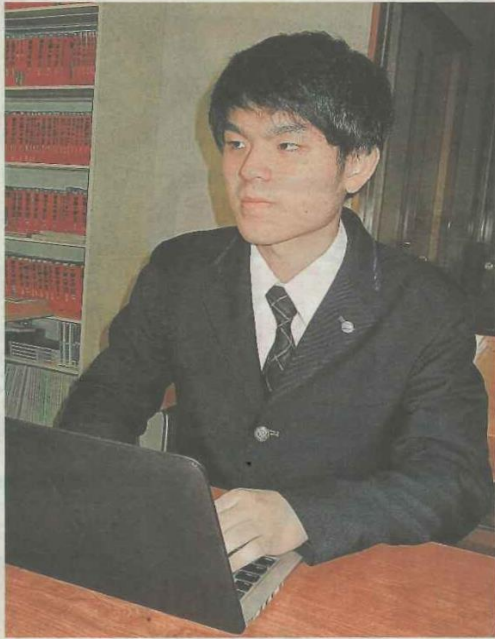
松本秀峰6年水橋大瑤さん

東大推薦入試に合格

プログラミング実績評価 工学部へ

松本秀峰中等教育
学校(松本市埋橋2
6年生の水橋大瑤
(たいよう)さん)18
安曇野市穂高は学
業の傍らプログラミ
ングに没頭し、さま
ざまなコンテストで
活躍。実績が評価さ
れ、東京大工学部の
推薦入試に合格し
た。卒業式を終え、新
生活への期待に胸を
膨らませている。

(梅田和恵)



東大の推薦入試は3
年目。中信地区では初
の合格者となる。工学
部の合格者は水橋さん
を含め16人。
水橋さんが情報工学
に興味を持ったのは、
同校の1、2年生課程
でも自分自身で状況を
受けた「ロボティク
ス特別講座」がきっかけ。
人間が操作しなく
ても自分自身で状況を

判断して動作するロボ
ットを作った。

「自分のアイデアを
プログラミングという
言語を通して実現でき
ることや、その過程が
楽しい」と、その後、
独学で勉強を始め、学
校が終わるとスパーバ
のフードコートや自宅
で計5時間パソコンに
向かう日々を送ったと
いう。

4年生(高校1年生
で全国の高校生以下の
生徒が対象の「情報オ
リンピック」本選に出
場。複雑な計算手順の
プログラムを考える課
題に取り組んだ。
さらに5年生のとき

持ち歩いている愛用
のパソコンに向かう
水橋大瑤さん

は、若手研究者を支援
する「未踏IT人材発
掘・育成事業」(独立
行政法人情報処理推進
機構主催)に応募。全
国で唯一高校生として
選ばれた。水橋さんが
テーマにしたのは「ア
クアポニックス」。水
槽を使って野菜の水耕
栽培と魚の養殖を同時
に行うシステムで、植
物・微生物・魚という
一つの生態系の循環を
コンピューターで制御
し、生産効率を上げる
装置を開発した。

このほか「物理チャ
レンジ」の本選や学校
の仲間8人と出場した
「科学の甲子園」など
で活躍。日本最大のセ
キュリティーコンテス
ト「SECICON」でも
海外の強豪チームと
も対戦した。

こうしたコンテスト
やプロジェクトは全て
自分で見つけ、応募し
た。同校の菱田智晴教
頭(54)は「行動力がす
ごい。分野も多岐にわ
たり、周りを巻き込む
力もある」と言う。
3日の卒業式では答
辞を述べ、「一番初め
に何かをするのは難し
いし、リスクもあるが、
恐れずにチャレンジし
てほしい」と後輩たち
に呼び掛けた。

将来は「情報工学た
けでなく自然科学など
いろいろな視点から研
究し、人や社会に新し
い価値のあるものを残
したい」と水橋さん。
入学後は「都内で開か
れる情報工学の勉強会
にも参加し、1年生か
ら研究を始めたい」と
話している。